

《ほっかいどう学力向上推進事業》

「北海道の子どもたちの学力について考える会inえりも」

兼「平成28年度えりも町教育向上対策委員会実践報告会」

講演「組織的な学校づくりと学力向上に向けた授業改善について」

北海道教育大学大学院教授 水上 文実 氏

教育関係者や保護者、地域住民等が、えりも町教育向上対策委員会における1年間の実践報告と北海道教育大学大学院教授 水上 文実 氏の講演、参加者によるグループ協議を通して、子どもたちの学力向上に向けた取組について理解を深めました。

水上氏の講演では、全道の「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校において、大きな成果が見られた実践事例を基に、「組織的な学校経営・学校運営」や「各学校種間の連携」、「家庭との連携」の取組が学力向上につながっていることなど、えりも町や日高管内の学力向上に関する御示唆をいただき、最後に、日高教育局 赤間局長が今後に向けた取組についてのまとめを行いました。

【日 時】 平成28年12月22日（木） 14:00~16:10

【場 所】 えりも町福祉センター 大会議室

【参加者】 107名



【概要】

○ 実践報告「えりも町教育向上対策委員会の取組について」（えりも町立笛舞小学校長 五十嵐 重信 氏）

- ・平成2年、えりも町の子どもたちの学力の実態把握や学習指導環境の整備、保護者や地域住民への啓発を目的に、本委員会を発足した。
- ・今年度は、「チームえりも」として「凡事徹底」を合言葉に、実効性のある具体的な取組を推進してきた。
- ・取組の定着や家庭学習の一層の充実などに課題があるものの、確実に子どもたちはよい方向に変容してきている。
- ・今後、子どもの学力の経年変化の分析を踏まえて取組を改善するとともに、1つ1つの取組を徹底・継続することが大切である。

○ 講演「組織的な学校づくりと学力向上に向けた授業改善について」（北海道教育大学教授 水上 文実 氏）

- ・「学校力向上に関する総合実践事業」道内アドバイザーとして実践指定校を訪問し、改めて学校が一体となって取り組むことの重要性を実感した。
- ・学校が一体となって取り組み、成果を上げた学校にはいくつか共通の特徴があり、例えば、学力向上に関しては、「管理職のリーダーシップ」、「小中連携、一貫教育の推進」、「学習規律の徹底」、「基礎・基本の定着と少人数指導の充実」、「家庭学習の指導の充実」などに力を入れている特徴がみられた。
- ・教職員や保護者、地域住民が、学力向上に向け、「チーム学校」として目指す子ども像や目標を共有する必要がある。
- ・国や道の動向を注視し、学力向上に向けた具体的な授業改善の内容等を学校改善プランに位置付けたり、学校や家庭、地域社会等が連携し、小・中・高を含めた12年間で地域の子どもの育てるという意識を高めたりすることが大切である。

○ グループ協議

- ・小グループに分かれ、「家庭学習の充実に向けた取組」や「子どもの学習意欲の喚起」、「具体的な授業改善の方策」などについて協議を行い、全体で本会の成果と課題の交流や確認を行った。

<グループ協議で確認された成果と課題>

□成果：単元を見通したり、課題とまとめを位置付けたりする授業づくりを学校として統一して取り組んだことにより、子どもたちの学習意欲の喚起につながっている。

■課題：授業と家庭学習を関連付けた授業改善や、家庭との連携の在り方を具体化する必要がある。



○ まとめ（日高教育局長 赤間 幸人）

- ・これまでの各学校における取組について新学習指導要領を見据えた授業改善の視点で見直し、検証することが大切である。
- ・家庭学習の充実を図るために、「学びに向かう力」を具体的な子どもの姿でイメージし、学校と家庭が目指す子ども像を共有して、子どもの変容で検証することが大切である。